いつも町民の目線で、困っている人に寄りそい全力

川西あきのり　まちづくり活動

国・県にも町民の声とどける

町に対して住民の声を届けるのはもちろんのこと、党の国会議員や県議会議員とも連携し、国政や県政にも町民の願いを届けてきました。
すぐに現場に駆けつけ、要望を聞き届ける―「住民に奉仕する」が川西議員のモットーです。

国に出向き、町民の願いや要望をまっすぐ届ける川西議員（右から3人目）

住民団体とも力をあわせて

地域社会の安全・安心、平和、ゆきとどいた教育、農業、中小業者支援の強化などを求める住民団体とも力をあわせ、町に申し入れを行ってきました。

町長（左から2人目）に要望書を手渡す

町政を町民に知らせて

「町政がよく分かる」ようにと、３８回の議会報告（奥出雲町民報）。「まずきちんと知らせて」と、議会が終わるたびに欠かさず発行してきました。

「困ったときは川西さん」

年金や介護、医療費、家庭内の心配事、婚活支援、引きこもり、子どもの不登校やいじめ・・・。寄せられる生活相談はさまざまです。
一つ一つの相談に、一緒に悩み解決に。また、地域の要望の実現などにも誠実に取り組んできました。

これからも実現するまで奮闘します

２００３年（１８年前）、旧仁多町議会議員になった時から「子どもの医療費助成」を提案。奥出雲町でも、ついに中学卒業まで無料になりました。
これからは、１８歳まで医療費を無料にするよう求めます。

川西あきのりの歩み

中学は陸上大会で1位に

大原郡（当時）加茂町で駐在をしていた父が退職したのを機に、本籍の三成に移り、この地で育ちました。
本が大好きで、物静かな小学生時代。中学の仁多郡陸上大会に出場し1位になりました。

協同組合に興味を

少年期、みんなで助け合う協同組合に興味を持ち、鯉淵学園組合科に入学。
民主的農協といわれた茨城県の旧玉川農協に就職。
農産物加工販売活動を学ぶ中で、日本農政の課題を知りました。
東京都内の生協設立に参画する中で、政治変革の党と出会い、入党しました。

仁多米・もち販売の先駆けとして

父の強い要請で帰省。旧仁多町農協に就職。減反政策と冷害による不作が農協経営を圧迫し、労使紛争に発展。
労組が分裂。労組役員に推され、十年かけて修復の足がかりをつくりました。コメを再び特産品にと農協幹部、若手職員らと知恵を出し合い、県内外販売に全精力を傾注しました。

毎議会、質問に立つ

2003年、旧仁多町議会議員に初当選。13年、17年奥出雲町議会議員に当選。川西町議は毎回質問、討論し、町政に国政が直結していることを、住民の要望をもとに熱く論戦しています。また、他の議員と議会活性化にも努めてきました。